

昭和25年

下関市庁舎懸賞競技設計の実施 ～下関市役所新庁舎設計図案の募集～



昭和20年に当時の庁舎が戦災により焼失。戦後復興計画の一環として、耐火構造による庁舎を建設するために、全国から設計図の懸賞募集を行う。これは戦後間もない時期としては、本格的な競技設計（コンペティション）となった。

募集要項（「昭和25年度 庁舎建設一件」より）

下関市廳舎懸賞競技設計募集

下記募集規程によつて懸賞競技設計を行いますから広く建築家の応募をお願い致します。

昭和25年10月 下関市

(主 題) 「下関市役所新廳舎設計圖案」

西日本の交通の衝に當り、全國有數の水産都市として又大陸貿易港である下関市廳舎の新築設計圖案を懸賞募集する。

(賞 金)

1等	1名	200,000圓
2等	1名	150,000圓
3等	1名	100,000圓
佳作	5名	10,000圓宛

賞金は發表後20日以内に本人宛送金する。

(提出期日) 昭和26年1月20日正午後記へ提出すること。

(審査員) (五十音順)
 東大教授 工学博士 岸田日出刀 東大教授 工学博士 高山英華 東工大教授 工学博士 谷口吉郎
 東大教授 工学博士 坪井善勝 前川國男 建築事務所長 前川國男

(設計要旨)

- 敷地は附圖の如く中央に高臺をもち、市の中央部商業地域に位置して、關門海峡を指呼の内に望み、緑樹滴る丘陵を背後に受けてゐる。
- 建物は地下1階地上4階乃至5階程度として、延11,000平方メートルとし、建物の一部を外廊團體事務所として、使用出来る様にする。所要室數と面積は所要室表の通りとする。
- 構造は鋼筋コンクリート造を原則とし、一部鐵骨造とするも自由である。但し建築基準法に據るものとする。
- 設備として衛生、給水、排水、電氣、瓦斯、暖房（直接温水暖房）の設備をする。

(応募圖書)

配置圖（庭園計畫を含む）	縮尺 1/500	立面圖（4面）	縮尺 1/200
平面圖（各階）	縮尺 1/200	透視圖	縮尺 適宜
斷面圖（2面）	縮尺 1/200	説明書（1,000字以内）	

- 用紙は製圖紙縦 55cm、横 75cm 程度とする。圖面の枚數は制限しない。
- 仕上は自由。
- 記入寸法は凡て「メートル」法に依る。
室名は符號を用ひず、直接其の室名を記入し、其の室面積を併記すること。

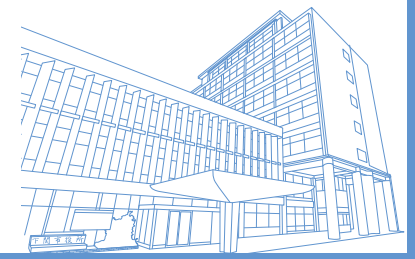
(提出方法) 提出圖書は凡て匿名として、暗號(日本語に限る)を附し、別に封筒の表に暗號を記入し、住所・氏名及び暗號を記入した用紙を封入の上、圖面と共に直接持参又は郵送すること。

(提出先) 東京都中央区銀座西3丁目1番地 日本建築學會氣付
「下関市廳舎設計懸賞募集係」宛

(發表) 審査の結果入選の氏名等は昭和26年2月上旬の「下関市報」其他の新聞紙上に發表すると共に本人宛通知する。

(応募圖書の取扱) 入選圖書に關する一切の權利は本市の所有に歸する。又入選圖書以外の応募圖書は、希望によつて返却するから、応募の際豫め明記されたい。

(附 記) 応募の際は「敷地詳細及び敷地寫真」並びに「所要室表」を必ず参照されたい。希望者は6圓切手封入の上日本建築學會へ申込まれたい。



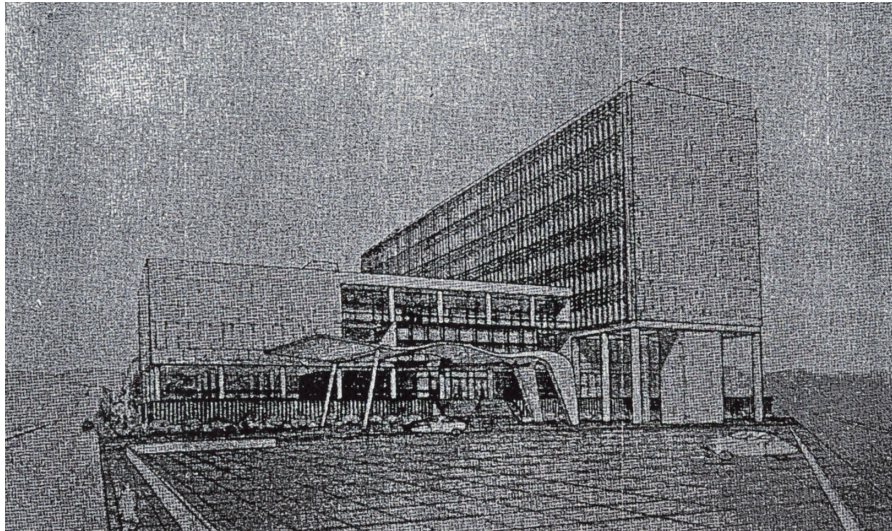
下関市庁舎懸賞競技設計の実施 ～1等入選者の決定～

応募案は144件（うち1件は、締切り後に持参されたもので無効）にも及び、昭和26年1月に設計図について審査を行い、田中誠氏らの案が1等入選と決定した。審査の方針としては、構造のみならず、起伏の激しい不規則な形状をもつ敷地に対する配置計画や関門海峡からの景観についても考慮された。

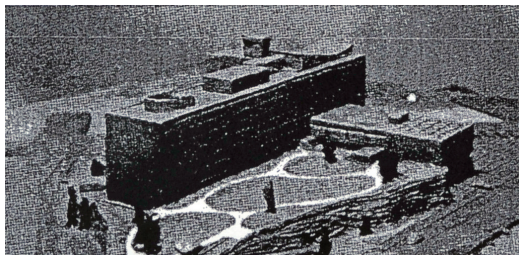
1等入選作品

競技設計審査報告（『日本建築学会 建築雑誌 昭和26年5月号』より）

透視図



模型



配置図

